

インターバンクの声（2015 年 11 月 11 日）

翌日が米国のベテランズ・デーのため、一部の市場が休場になることから、昨晚のロンドン、ニューヨーク市場は特に大きな波乱もなく終了している。米連邦準備制度理事会（FRB）の 12 月の利上げの可能性が高まっているが、株式市場を中心として中国経済の先行き懸念が根強く、なかなかドルや株価の上昇に勢いが付かないようだ。本邦勢にとっては、年末に向かってドル円が 125 円を回復して、さらなる円安に向かうかどうか注目が集まっているが、ユーロや豪ドルもなかなか興味深い水準にある。昨晚にしても、ユーロは欧州中央銀行（ECB）の追加緩和への期待感もあって、一時 1.07 ドルを切る場面もあり、今後本格的に今年 3—4 月に付けた 1.05 ドル前後の安値水準を割り込みに掛かるのかが注目だ。豪ドルもユーロ以上にきわどい水準に達している。足許 0.70 ドル目前の水準は 2009 年 4 月以来のことだ。その 2, 3 ヶ月前には、豪ドル円が 55 円台を付けている。今はドル円が円安となっているので豪ドル円については 30 円も離れた水準だが、0.70 ドルからどれだけ下げるか、下落傾向は続いているものの、もうそろそろ下限に近い気もする。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。